

電子ジャーナルバックファイル購入による 書架スペース確保の事例

大瀬戸 貴己

奈良県立医科大学附属図書館

I. はじめに

奈良県立医科大学附属図書館では、昨年の円高によって出た予算の余剰で、体系的にもれなく収集できオンラインの形態で提供できるという利点を汲み、電子ジャーナルバックファイルを購入した。当館では別棟に書庫を持ち、ほとんど利用のない資料を保管していたが、2010年度より他目的で使用するため資料を図書館に移転せねばならず、早急に書架を空ける必要があった。そこで、購入したバックファイルでカバーされている資料を廃棄し、書架スペースを確保することが学内で承認されたため作業を開始した。これを機に、当館図書除却要領（除却の決定基準）に「買取等により永続的に利用が保障された電子ジャーナルの当該発行年分又は電子ブックと同一内容のもの。」という項目を盛り込んだ。

II. 対象と方法

購入したバックファイルのうち、当館に該当年を所蔵している 86 誌を廃棄対象とした。廃棄対象誌の製本巻号と登録番号を目録カードからリストアップし、3 人体勢で廃棄作業にあたった。

III. 結果

3200 冊を廃棄し、約 160 段分の書架スペースを確保することができた。これは洋雑誌の配架場所である書庫 1 層全体の約 6%に相当する。看護分室の洋雑誌を移転するためには 120 段の書架スペースが必要であり、当初書庫 1 層には 39 段しか空きスペースがなかったが、今回の廃棄作業によって分室資料を無事図書館へ移転することができた。

IV. 考察

電子ジャーナルでは、通号は利用できても supplement は利用できない場合があるので、バックファイル該当年だけでは単純に廃棄決定できない。そのため suppl.を含む製本 273 冊は今回廃棄保留にした。当初見込んだ冊数よりも実際廃棄した冊数はやや減少したが、看護分室資料の移転を無事完了することができたという結果を見ると、バックファイルの購入を資料廃棄、ひいては書架スペース確保につなげたことは有効だったといえる。さらに近年急速に普及している機関リポジトリに注目し、当館図書除却要領（除却の決定基準）に「機関リポジトリ等を通じて電子的に一般公開されているもの。」という項目を同時に設け、和雑誌についても洋雑誌同様電子体で利用できるものは書架スペース確保のため廃棄する方針である。